ＮＰＯ法人　ハッピー　広報誌　　2021年3月発行　Ｎｏ．17

# ハッピー 通信

本部　〒890-0032　鹿児島市西陵１丁目８－７　TEL 099-282-7408　FAX099-296-1733　（事務局 TEL 099-283-6120）

―放課後―

放課後は
ワタシの時間　ボクの時間
仲間と一緒も悪くない
自分だけの世界をひろげたっていい
私になり　僕になっていく
自分をつくる時間
放課後

～寄り添い伴走する福祉従事者でありたい～

２０２０年はコロナ対策に追われた日々、それでも季節は廻り、桜の木々には固いつぼみが膨らんできています。それは人間の日々の営みに優しさを与えてくれます。生きているということ、あたたかいということ、きれいだということ　ホッとするということ　かなしいということ　○○さんが好きだということ・・・・。私たちはそんな感性豊かな世界の中で安心感や充実感を得られるのかもしれません。

人間と感染症との闘いは古くからあり、その中で知恵や科学が進んできたとも言えます、目には見えないコロナという得体のしれない物との戦いになす術もない弱さをあらためて実感するコロナ禍の中で、当たり前に過ごしていた日常のありがたさ、豊かだと思っていたことの不安定さに気づいたのも事実ではないでしょうか。

私は長年福祉という分野で働きながら多くのことを学ばせていただきました。そうして今福祉は押し付けではなく、困っている人に寄り添い共に伴走することではないかと思うに至っています。それは、困っている人が其処にいたら手を差し伸べることが人としての姿であり、福祉だったはずです。

「この人のために！この子のために！」と頑張っている私を認め褒めながらも、「この子たち」「この人たち」の本当の願いを、聞いてみる、聴ける「おとな」になりたいものです。

自分たちが実感している声を発し、共に働く仲間たちのその声を聴きあい、高めあい学びあう中で産み出し創る。そうして福祉は自分の仕事になるのではないのだろうか。

２０２１年　立春の頃に

ＮＰＯ法人ハッピー副理事長　前迫　とし子

児童発達支援事業所 子育てサポートどんぐり
鹿児島市西陵１丁目 8-7　TEL：099-282-7408　FAX:099-296-1733

## 〈私の実践日誌から〉

## “クリスマス会” ～ 12 月 20 日（日） ～

寒さが一段と身に染みるこの季節。白い息を吐きながらも、子ども達は元気に走り回っています。まさに『子どもは風の子』とはよく言ったものです。(^^)

さて、どんぐりの昨年度最後の行事と致しまして、恒例のクリスマス会を無事、皆さんのご協力のもと行うことが出来ました。ありがとうございました。当日は、晴天に恵まれ、心地よい暖かさの中で開催することが出来ました。これも子ども達の日頃の善い行いが良いからでしょう。(^_-)-☆

まずは、親子での制作。子ども達はキラキラしているシールを貼って楽しみ、ちょっと難しいところはお父さんお母さんに頑張って頂きました。出来上がったツリーに息を吹きかけ、クルクル回ると喜んでいる子ども達。とても微笑ましい光景があちらこちらで見られました。

昨年に続いて、MIUMIU さんにも来て頂き、クリスマスの曲を聴いたり、親子で踊ったりと今年も楽しませて頂きました。

そして、またまた、楽しく・面白くをモットウに“さつまのおいも”を今年は方言も交えて頑張ったどんぐり劇団。どこからともなく聞こえる笑い声、見える笑顔にどんぐり劇団も喜んでいましたよ。

でも、やっぱり子ども達の目が１番輝くのは、待ちに待ったサンタクロース登場。どんなアイドルにも勝るのではないでしょか。鈴の音と共に登場してくると大喜び。プレゼントをもらうと更に笑顔も倍増の子ども達。みんなで、サンタさんに色々な質問をして、一緒に写真も撮って楽しいひと時を過ごすことが出来ました。（文責：矢野）

## 『公開療育』

公開療育とは、他事業所の方が来られて療育の活動を参観し、感想や各事業所での取り組みなど意見交換してさらに療育の質を高めていきましょうというもので、今回は４事業所からの参加がありました。知らない方達が見ていて子どもたちは緊張しないかな!?と不安もありましたが、「やりたい！！」「おもしろい！！」といつもの笑顔を見せてくれる子どもたちに私もドキドキせずにみんなと楽しむことができました。そしてなにより子どもたちが楽しみや興味をもって遊ぶ姿がたくさん見られて嬉しかった活動でした。また、どんぐりの職員も希望を出して他事業所で行われる公開療育に参加しています。（文責：奥田）

**あ・そ・び♪**

## どんぐりの遊び紹介

子育てサポートどんぐりがある西陵地域には公園がたくさんあり、遊びの目的にあわせてその日に行く公園を選べるという恵まれた環境です。どんぐりの外遊び活動のひとつに《そり遊び》があります。公園内にそりですべって遊ぶのにちょうどよい芝の坂がある公園があるのです。春・秋はそりに乗って遊びますが、冬になり年が明けてからは、そりを使わずダンボールをつなげてコースを作り、ダンボールの上をすべって遊びます。そりは１、２人しか乗れませんがダンボールの上はお友達と一緒にすべることができます。春先はまだできていなかった関係も、ダンボールそりをする頃には深まっていて、お友達と、職員と一緒に「行くよ～、３，２，１　！！」と声をあげながらすべります。お友達、風を感じ、身体を使う心地よさを感じられる遊びです。

放課後等デイサービス事業所　スクラム

鹿児島市西陵１丁目４５-３　TEL：099-283-6130　FAX：099-296-1231

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：kaisagyousyo@po2.synapse.ne.jp

## コロナ禍の中での焼き芋会で得られたもの

コロナ禍の中でのスクラムでのイベント開催、制限されることが多い今年度でしたが、コロナ禍だったからこそ得られたことは何だったのか、焼き芋会を取り上げて振り返ってみることにしました。

１１月、都市農業センターで焼き芋会&保護者学習会を実施しました。例年就学前・就学後の子ども達同士や保護者同士の交流を目的として子育てサポートどんぐりと合同で行っていましたが、今年度はスクラムのみで開催し、親子活動も密を避けるために、昼食までは子ども達と保護者の方々は別々の場所で過ごすという形で行いました。

親子で一緒に焼き芋づくりはできませんでしたが、それによって得られたこともありました。それは、スクラムの子ども達同士が力を合わせて目的を持って取り組む体験や、子ども達がイベントにただ参加するのではなく、イベントを自分たち自身で作り上げる体験です。今回は、焼き芋会用の芋を子ども達自身で掘りに行くという活動も放課後活動に取り入れ、焼き芋づくりでは、芋を新聞紙とアルミで包む役割、火の中に芋を入れる役割など、子ども達はそれぞれの役割に分かれて取り組みました。例年だったら親子で一緒に取り組むところを、今回は親とではなく子ども達同士で協力している姿が見られました。また、出来上がった焼き芋をただ食べるのではなく、自分で芋を掘ってきて自分で焼き芋を作るといったように、受動的ではなく能動的にイベントに参加することができたのではないでしょうか。

さらに、誰かを思ってその人のために何かをする体験もすることができました。自分の分の焼き芋だけではなく、「お母さんの焼き芋も作る！」と別の場所にいるお母さん達の分も作る子ども達。そして全員集まっての昼食では、お母さん達から「焼き芋作ってくれてありがとう！美味しいね！」と言ってもらえてとても嬉しそうな表情の子ども達の姿を見ることができました。親子で一緒に作ることで得られるものももちろん多くあると思いますが、今回は“お母さんのために作ろう”というように、誰かを思ってその人のために何かしようという気持ち、「ありがとう」と言ってもらえる喜びなどを得られたのではと思います。

その他のイベントにおいても、日々の活動を考えていくうえで私たちが大事にしている、“子ども達にどんな体験をしてもらいたいか”“一人一人が輝く姿が見られるようにするには”ということは、たとえコロナ禍であっても忘れないように大事にし、できることを工夫してきました。イベントは、普段の放課後活動では見られない子ども達の様々な表情を見ることができます。まだコロナがいつ終息するか分からない状況ですが、今後もこのコロナ禍で得られたことを活かし、子ども達の良い表情が見られるようなイベントを開催していこうと思います。（文責：有薗）

## 保護者と共に～つながり、学び合う～

スクラムでは親御さん同士の交流、きょうだい児さんと活動する時間も大事にしたいと考えています。例年ならそのような行事を楽しく企画していくのですが、今年は新型コロナウイルスへの対応から慎重にならざるおえない状況…でも諦めきれず…考えました。結果、行事自体はスクラムに通う子ども達のみの参加にして実施。親御さんにはボランティアとして夕食を作りをお願いし、人数をしぼって縁の下で支えてもらうことにしました。夏まつりではカレーとフランクフルト、秋祭りでは豚汁とおにぎりが振舞われ、手作りの味にみんな大満足でした。ご協力いただいた、お父さん、お母さん方にこの場を借りて改めて感謝いたします☆

また、親御さん方と子どもの育ちへの想いを共有し深めていけたらと考え、学習会も実施しました。心理士の先生と学齢期の育ちについて学び、特別支援学校の先生も交えながら親御さん同士の意見交流を行いました。スクラムに通い始めて初めて保護者同士の交流の場に参加される方もおられ、顔を合わせてつながる貴重な機会となりました。

感染予防を意識する日々の中、人と人とのつながりのあり方も改めて考えさせられた１年でした。きょだい児さんとの時間を持てなかったことが心残りですが、難しい日々の中それでもどうにかと、共に過ごす時間を創り、考え合えたことが、これからの日々の支えとなっていくのではないかと希望を感じます。（文責：児玉）

**育ち合う 放課後**

## 憧れの気持ちは成長へのエネルギー♪

Ｒさんは５年生。頑張り屋さんでやってみたいことがいっぱいの楽しみ上手な女の子です。視野に制限があり、目と手の動き、体の動きをコントロールする事に人一倍の根気と努力を要するＲさんですが、手芸活動では自分のペースでじっくりと作り上げる手ごたえを感じる姿で一針一針“楽しい♪”と笑顔を交しながらできた喜びを表現するＲさんです。

ところがある日の手芸活動はちょっと違いました。自分の作品（フェルトのお花）ができあがった喜びを感じていたのは束の間…何だか曇った表情です。私はどうしたんだろう？と思い尋ねました。するとＲさんの口から「Ｒのは足りない…Ｙちゃんはいっぱい作ってる。」ということば。Ｒさんのお隣で作っていたＹさんの手元にはたくさんの作品が並んでいます。「Ｙちゃんみたいに作りたい…。」とＲさん。でも、放課後の時間はあっという間です。私は「Ｒちゃんもたくさんつくりたかったんだね…そうかぁ…」ただそうとしか言えず、その日はできた嬉しさと残念な気持ち両方を持って帰ったＲさんでした。翌日「お花作りたい。」とＲさん。それからしばらく放課後や夕方のハッピータイムの時間をみつけては作りたい事を伝え過ごしていくＲさんの姿がありました。

悔しさや残念さ、そして憧れなど様々な気持ちを体験し、放課後をなりたい自分へと向かう時間にしているＲさんを感じます。そんな姿に子ども同士で育ち合う放課後のよさを改めて感じています。（文責：児玉）

生活介護事業所 サポートセンター開

鹿児島市西別府町 2794-29　TEL:099-283-6120　FAX:099-204-0134

## 労働とは？

「何のために働くのか」。サポートセンター開で、なかまたちの支援について考える度に何度も何度も思いを巡らせてきました。なかま達にとっての仕事ってなんだろう、私たちにとっての仕事って何だろうと考え続けています。

なかま達への支援を考える時に、普段のなかま達の様子や、サービス等利用計画書など、相談支援員さんや保護者の方等の考えや思いを受け、「きっとこういう生活を望んでいるのではないか、こういう人生を送りたいということなのでは」という目標を立てます。本人の性格や体の使い方、理解の仕方、そして障害特性などを考慮し、できる仕事やスキルを増えることを目指しますが、ただ単にできることを増やすことが目的にならないように気を付けなければなりません。

例えば、食品加工班で働く方の目標は「得意な仕事を増やしたい（パン生地の分割計量に取り組む）」でした。本人が本当に「パン生地の分割計量に取り組みたい」と思っているかどうかは正直わからないですが、数字を読むことができる、量の増減がわかる、他のなかまができない特別な仕事である、などを考慮して支援を組みたてます。

最初は新しい仕事の分からなさや、それまでの仕事への取り組み方のリズムが変わった事への不快感があったように思いますが、分割計量した生地を、次の工程のなかまが受け取り、協力してパンを作っている実感を得たのか、しばらくすると「それは私の仕事だ」と言う様に自信を持って、1g の誤差も見逃さずに正確に計量します。なかまとのつながりの中で自分の役割、存在が重要なものであると感じたのかもしれません。そしてその仕事やスキルを通じてなかまとつながり、集団の中での自分の存在が輝き、「喜び」「達成感」など、自分を肯定的にとらえられたのかもしれません。それが仕事の充実、生活の充実につながっていると感じています。

サポートセンター開では様々な仕事に取り組んでいます。公園清掃、タオル作業、刺し子作業、油取りパック作業、パン作りやスイーツ作りなど。なかまや私たち職員も含め、他の誰かじゃ成り立たない役割を担っていることを感じながら、なかまたちがそれぞれの力を発揮して、かけがえのない仕事にとりくんでいます。（文責：大石）

## リズム体操

サポートセンター開では月２回、水曜日の午後に運動活動として『リズム体操』に取り組んでいます。講師の先生を招いてゴムボールやフラフープなどを使いながら、みんなで楽しく体を動かしています。開のお昼休み、「今日リズム体操だね～」「今日は何するかな～」「楽しみだね～」と、笑顔でスタッフと話したり、両腕や腰を回して体操の動きをするなかまたち。午後の活動開始の５分前、リーダーのスタッフが「５分前で～す」「準備をお願いしま～す」と、声を掛けると「は～い」と、なかまたちは嬉しそうに倉庫にあるボールを取りに行って、足早に車へ乗り込むなかまの姿。車で星ヶ峯の『ふれあい館』へ向かいます。ふれあい館の体育館に着くと、係のなかまが今日の参加人数を講師の先生に伝えて「よろしくおねがいします。」とあいさつをしてリズム体操のスタート。最初はボールを真上に高く投げたり、ボールを足に挟んで伸ばしてストレッチなど、軽い運動で体と心を温めていきます。次は横一列に並んで先生の「よーいどん」の合図で走る・スキップ・カニのまねして横歩きなど、大きく体を動かします。先生やスタッフの手本を見ながら広い体育館をなかまたちが笑顔で駆けていきます。この他にもフラフープを使って体操があります。「せ～の」でフラフープを頭から足まで通したり、手を捻ってクルクル回したり、足を使って「ケンケンパ」…とだんだん難しい動きになっていきます。はじめはできなかったなかまも何度か練習すると、「…できた～」「先生見て～」と自信を持って体を動かしています。体操の終盤はお待ちかねのダンスタイム。手を繋いで輪になったり、流行りの曲を踊ったり、音楽に合わせて体と心を揺らし、弾ける笑顔で楽しさを表現しています。開では普段、３つの班に分かれて作業活動をしています。リズム体操ではみんな一緒に揃って体を動かす心地よさを共有して、他の班のなかまたちと関わる場となり、また講師の先生に会えることを楽しみに参加しています。これからもなかまたちの良いリフレッシュ活動になっていけたらと思います。（文責：岩松）

## 作品紹介

### ＜刺し子のコースター＞

ハッピー班で制作している刺し子のコースターは、なかまたちが一針一針縫っていきます。最初は一人で糸を通す・糸を結ぶ事も難しかったですが経験を積み重ねることで今ではほとんどの工程をそれぞれが一人で取り組めています。中心を大きく縫う仲間や、その間を細かく縫う仲間、外枠を力強く縫って形を整える仲間と分担して取り組んでいます。糸の色・糸の引き方で個性が出ており、どれもがこの世に一つしかないコースターです。好みに合う色合いのコースターがありましたら手に取っていただけたら幸いです。

共同生活援助事業所 グループホームハッピー
鹿児島市直木町 3399-1　TEL：099-295-4312　FAX:099-295-4315

## ホームのねがい、実現！～保護者と一緒に取り組んだこと～

「いつかグループホームの広い庭に畑ができたらいいよね！」そんなねがいがグループホームハッピー開所当初からありました。昨年１１月、グループホームの花壇の手入れに訪れていた保護者の方が「やっぱりグループホームの庭に畑が作りたい！自分たちで作った野菜を食べたらどんなにおいしいことだろうね！」その熱意は保護者から保護者へ。更に職員、入所者さんにも話が広がり、それではー度集まって話し合いをしてみましょうということになりました。畑づくりって難しい？どんな大きさの畑にしたらいい？何を植えよっか？ここに畑を作れば日当たりはいいかもね！と畑づくり初心者に経験者を合わせ協議を重ねました。１１月に入所者さん、保護者、職員で畑づくり決行！畑づくり当日は晴天に恵まれ動くと汗ばむ陽気。入所者の方、保護者、職員も帽子を被り、首にタオルを巻きやる気満々です！まずはシラスを掘り石を取り除きます。ゴロゴロと大きい石がたくさんありましたが、「力作業は任せて！」と入所者の男性陣が一輪車にシラスと石を乗せ次々に運んでくれます。重たい土、肥料を入れ、苗も皆で植えることができました。「疲れたけどみんなで畑を作れてよかった」どこからともなくそんな声が聞こえてきました。そこから毎日畑の水かけが始まり、寒い日の朝も、小雨が降る日も畑を見に行き、野菜の様子を見守る日々。ところが…１月に入り鹿児島県に数年ぶりとなる積雪。「まさか野菜たちは……。」「畑の野菜どうなってるかな……。」と心配でしたが、枯れることなく無事に育っていました。水菜、春菊はとても大きく育ち収穫してサラダ、スープにしてみんなで食べました。「自分たちで育てた野菜はどう？」と尋ねると、ニコッといい表情。にんじんやカブも芽が出てきており収穫が楽しみです。

畑を作り野菜を育て、みんなで食べるという新しい取り組み。入所者さん、保護者、職員が一体となり、生活の中での新たな楽しい日課となりました。次は夏野菜作りにも挑戦！どんな野菜を育ててみたい？と野菜の本を見ながら話をしてみると、「トマトかな～きゅうりもいいよね」と声が上がりました。中には「スイカがいいな」という声も。またみんなで話し合いの場を設けて、育てる野菜を決めていきましょうね。（文責：西田）

## 暮らしの工夫

グループホームハッピーでの入所者さんが楽しく暮らしやすく、また、より良い生活をして行く上での工夫として、顔写真を用いたり、イラストで分かりやすくする取り組みをしました。

そこで、生活介護から帰ってきた後、水筒・箸箱・マスクのイラストを作成し、それぞれの BOX に、自分の持ち物を入れてもらうように工夫したり、食事用のお盆の上に、各自の顔写真を作成し、お盆の上に置いた写真を確かめ、各自がお盆を取テーブルへ運んで食べて頂く工夫をしました。また、コロナウイルス感染防止という点では、日々のマスク着用に向けて、グループホームの女性職員が中心となり手作りマスクを作りました。入所者さんの中にはマスク着用が苦手な方もいらっしゃいましたが、好きなキャラクターのアップリケを付けることにより、外出時のマスク着用ができるようにもなりました。新しい生活様式への取り組み。入所者さん達は生活の変化に戸惑いながらも、少しずつ対応しているようにも感じられます。「手洗い、うがい、換気」グループホームの生活の中で出来ることは、しっかりと取り組みながら入所者さん、職員ともに感染防止に努めていきたいと思います。（文責：林）

### 衣・食・住

グループホームでは入所者の方々の健康に配慮した
食事作りを行っています。今回のおすすめする食材は“高野豆腐”。高野豆腐には良質のたんぱく質（免疫機能・筋力に作用）が豊富に含まれ、低カロリーな食材です。
グループホームハッピーの入所者さんも真っ先に箸を伸ばす、人気の食材です♪

●高野豆腐の含め煮●　　材料（４人分）
・高野豆腐２個　にんじん８０ｇ　さやえんどう適量
・だし汁１カップ　砂糖小さじ２　みりんこさじ２　塩小さじ２　濃口醤油小さじ１
＜作り方＞
① 高野豆腐を戻します。
② にんじんは１口台にカット、さやえんどうは塩少々でボイル。
③ 高野豆腐は軽く絞ります。
④ 高野豆腐、にんじんを調味料で含め煮。最後にさやえんどうを浸します。

## <リレートーク スタッフ&保護者>

**～私の仕事～**

サポートセンター開スタッフ　永田　怜佑

私にとって仕事とは？と考えてみましたが、いざ考えると難しく、試しに辞書を開くと

「するべき事」　「しなければならないこと」

「生計を立てるために従事する事。」

となっていました。言葉としての意味は理解しましたが、そこに私はどんな価値観・仕事観を持っているのか。私とこの仕事との出会いから考えることに。

学生時代、ボランティアにたくさん参加しました。スクラムでの活動もその一つで、そこで初めて障がいをもつ子ども達と接しました。その時は経済学を学んでいた自分が福祉で働くなんて事は考えず、社会勉強として参加をしていて、福祉を仕事にして日々支援をする職員の方たちはすごいなと思っていました。現在私がハッピーで働くようになって６年、開で働くようになって 4 年がたとうとしています。その時すごいと感じた職員の方たちに私はなれているかはわかりませんが、毎日働く中で新たな発見や考え方、物の見方を模索し、自分の支援とは？他の人の支援の仕方は？と考えて、行き詰まったら他のスタッフと話してみて聞いてみての繰り返しの日々です。その中になかまの新たな姿に喜び、うまくいったときは嬉しさに価値を見つけている自分を感じます。そんな日々が「私の仕事」に対する現在の思いです。ここから１年・２年また 10 年後に違った答えを出せたらと思います。

**～できるようになったこと！～**

スクラム保護者　勝木さん

中学生になり、今ではスクラム１の巨体となりましたが、まだまだ甘えん坊で時々“だっこして♡”と膝に乗ってきます、、、（苦笑）

どこかに体をぶつけて「いたー」と伝え、「痛いね」と共感するまで言い続けたり、完璧ではありませんが、トイレへ“行く”“行かない”のサインを出すこともできるようになりました。私をジーッと見つめて「〇×△□～♪」と言葉にならないボク語（笑）で話しかけてくる様には思わず笑みがこぼれます。

今年度はコロナの影響で活動も制限される中で、行われた秋祭りに参加させて頂きました。息子はスタッフさんと一緒に買い出しに行ったり、開会のあいさつ？をしたり、ボランティアで参加した私は同じく参加された保護者の方と交流でき、息子の成長も感じられる有意義な楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

日常生活では、できない事、大変な事ばかり目についてしまいますが、できる事は少しずつ増え、笑顔になれる楽しい時間もあります。

ゆっくりゆっくりの息子の成長に焦らず、向き合っていきたいです。

ブログ等で各事業所の最新情報をぜひチェックしてみてください♪

ホームページアドレス

http://npo-happy.org/

特定非営利活動法人ハッピー 鹿児島　検　索

**☆　賛助会員を募集しています　☆**

NPO 法人ハッピーでは地域の中でも誰もが安心してひとりの人間として生活していけるように地域生活サポートに関する活動を行い、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進を図ります。私たちの取り組みにご理解くださり、賛同して下さる方を広く募集しています。皆様のご理解とご支援の下、地域に根ざした福祉の向上に努めます。どうぞ宜しくお願い致します。詳しくは本部までお問い合わせください。

**賛助会員**　　個人　一口　　2000 円

団体　一口　　10000 円　（何口でも可）

【入会方法】振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別(個人/団体)をご記入の上、下記口座にお振込みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

**＜口座名義＞　トクテイヒエイリカツドウホウジンハッピー**

**ダイヒョウシャ　ヤマサキヒロノブ**

**＜口座番号＞　鹿児島銀行　　西陵支店**

**普通預金　　口座番号　５４５７２２**

お問い合わせ先　NPO 法人ハッピー　099-283-6120（担当：有村）